

2. 研究の詳細

プロジェクト名	リズムを活用した剣道授業用学習教材の開発		
プロジェクト期間	平成29年4月～平成30年3月		
申請代表者 (所属講座等)	本多 壮太郎 (保健体育講座)	共同研究者 (所属講座等)	

1. 研究の目的

本プロジェクトでは、中学校体育の剣道において基本動作や基本となる技を、効果的、効率的に学習者に身に付けさせていくため、リズムを活用した学習教材を作成し、実際の中学校現場での授業実践を通してその有効性を検討することを目的とした。

2. 研究の内容

- (1) リズムを活用した学習教材の作成
- (2) 中学生初心者を対象とした実践及び検証
- (3) 検証結果を基にした指導支援動画資料の作成

上記(1)～(3)を通して、剣道を専門としない教員でも、生徒に基本動作や基本となる技を効果的に習得させるとともに、新学習指導要領の目標及び内容に対応した授業実践研究につなげていくこととした。

3. 研究の方法・進め方

(1) リズムを活用した学習教材の作成

剣道の基本動作（面打ち、小手打ち、胴打ち）及び基本となる技のうち、中学校第1・2学年の内容である二段の技（小手一面）、引き技（引き面、引き小手、引き胴）に焦点を当て、それぞれの動作や技の動きを8つに分け、それらを1～8のリズムで学ぶ教材「リズム打ち」を考案した。

以下にそれぞれの動きの順序を示す（拡大版は別紙①②③の「教員用指導支援資料」参照）。

1～8のリズムで行う「面打ち」	1～8のリズムで行う「小手打ち」
1～8のリズムで行う「胴打ち」	1～8のリズムで行う二段の技「小手一面」



動きのパターンとして、基本動作及び二段の技の場合、①中段の構えから左足で床を押しながら右足を一步前に送り出す、②竹刀を振り上げながら左足を引きつける、③打撃、④（基本動作の場合）左足で床を押しながら送り足で一步進む、（二段の技の場合）次の打撃、⑤送り足で進む、⑥もう一步進んで右足を軸足にして振り返る、⑦左足を着地させる、⑧中段に構える、とした。引き技の場合は、①鏝迫り合いの状態から、左足を半歩下げる、②上体を若干後ろに倒しながら竹刀を振り上げる、③後方に右足、左足の順番に踏み出しながら打撃、④送り足で一步後退、⑤送り足で一步後退、⑥送り足で一步後退して止まる、⑦⑧中段に構える、とした。

このように、各動作や技に共通する動きの順序にすることで、学習者が理解しやすく、効果的に習得が図られるように工夫した。

(2) 中学生初心者を対象とした実践及び検証

考案した上記のリズム打ちの有効性を検証するため、実際の中学校の授業での実践を下記の通り実施した。

1) 対象

福岡県内のF中学校第2学年の男子19名、女子18名、計37名を実践の対象とした。

2) 時期

平成30年1月から2月に以下に述べる6回の授業を実施した。

3) 授業の内容

設定した単元目標、実践内容、評価項目など詳細については別紙④の単元構造図に示す通りである。ここではリズム打ちを中心に大まかな授業の内容と展開について示す。

1時間目では、オリエンテーションの後、竹刀の持ち方やすり足による移動の仕方などを行った。2時間目は、垂れと胴を装着した後、「相手の胴をうって一本をきめるには？」といった学習課題と関連させて、リズム打ちによる胴打ちの学習を行った。3時間目は、全ての剣道具を身に付けてのリズム打ちによる面打ちの学習との関連で、「相手に面を防御されたら？」といった学習課題への取り組みを行った。4時間目は、面、胴のリズム打ち、リズム打ちを応用しての面-胴の二段の技、「相手の面を打って一本をきめるには？」といった学習課題と関連させての小手打ち、小手一面の学習、攻撃と防御に分かれての簡易的攻防を行った。5時間目は、面と胴のリズム打ち、リズム打ちを応用した面-胴と小手一面の学習、作戦タイムやグループ練習をはさみながらの簡易試合を行った。6時間目は、簡易試合に向けたグループ練習と簡易試合、基本動作に関するスキルテストを行った。

上記の6回の授業を通し実施した直接的なリズム打ちの学習は2回目から4回目の授業の間で、それぞれの

授業での学習時間は15分程度である。いずれの打撃部位へのリズム打ちの学習もその前後に「相手の胴や面を打って一本をきめるには?」「相手に面を防御されたら?」といった二段の技や引き技につながっていく内容と展開の工夫を図っている。

授業は、F中学校に勤務し、剣道を専門実技としない男性の保健体育科教員により行われた。

4) 検証方法

平成29年3月に改訂された学習指導要領における剣道の技能の学習内容には、基本動作に加え、仕掛け技においては「二段の技」と「引き技」が示されており、二段の技は「小手一面」、面一胴、引き技は引き胴が例示として示されている。現行の指導要領と比較して内容の精選が図られており、最終的な「小手」への打撃により一本をねらう技の学習が中学校3年生以降に変更されている。このことより、本実践でのリズム打ちの検証にあたっては、基本動作の中から面打ちと胴打ちにのみ焦点を当てることとした。データ収集にあたっては、6時間目のスキルテストでの対象者の面打ちと胴打ちをタブレット端末で録画した。評価については、①竹刀の振り上げ、②打撃の正確性と打ち止め、③打撃と踏み出しの一致、④打撃と踏み出し後の足捌き、⑤方向転換から中段の構え、といった5つの項目からなり、3点から1点の三段階で評価する評価基準を作成した(別紙⑤参照)。評価においては、録画再生法により剣道歴38年で七段の段位を持つ研究者が、評価基準に基づき実施した。

上記の技能評価に加えて、計画・実践した授業内容及び展開についての対象者の受けとめ方を把握するため、2時間目から6時間目にかけて、高橋ら(2003)による形成的評価を実施し、「成果」「意欲・関心」「学び方」「協力」といった次元及び「総合評価」の観点からの分析を行った。

4. 結果

表1は、面打ち及び胴打ちのスキルテストの結果を示したものである。

表1.スキルテストの結果

面	①	②	③	④	⑤	合計
全体 (n=37)	2.84 (0.44)	2.70 (0.57)	2.81 (0.46)	2.46 (0.56)	2.81 (0.46)	13.62 (1.86)
男子 (n=19)	2.95 (0.23)	2.79 (0.42)	2.89 (0.32)	2.63 (0.50)	2.95 (0.23)	14.21 (1.13)
女子 (n=18)	2.72 (0.57)	2.61 (0.70)	2.72 (0.57)	2.28 (0.57)	2.67 (0.59)	13.00 (2.28)
胴	①	②	③	④	⑤	合計
全体 (n=37)	2.89 (0.31)	2.86 (0.35)	2.73 (0.51)	2.62 (0.49)	2.81 (0.40)	13.92 (1.26)
男子 (n=19)	3.00 (0.00)	2.89 (0.32)	2.89 (0.32)	2.79 (0.42)	2.84 (0.37)	14.42 (1.07)
女子 (n=18)	2.78 (0.43)	2.83 (0.38)	2.56 (0.62)	2.44 (0.51)	2.78 (0.43)	13.39 (1.24)

面打ちにおける各項目合計点の平均値(標準偏差)、①2.84(±0.44)、②2.70(±0.57)、③2.81(±0.46)、④2.46(±0.46)、⑤2.81(±0.46)、合計点13.62(±0.1.86)と、①、②、③、⑤と合計点で9割以上、④で8割以上の得点であった。男女別に見た場合では、男子は全項目及び合計点で9割以上、女子は①、③の項目で9割以上、②と⑤の項目と合計点で8割以上、④の項目で7割以上の得点であった。

胴打ちにおける各項目及び合計点の平均値(標準偏差)は、①2.89(±0.31)、②2.86(±0.35)、③2.73(±0.51)、④2.62(±0.49)、⑤2.81(±0.46)、合計点13.92(±1.26)と、面打ちと同じく①、②、③、⑤と合計点で9割以上、④で8割以上の得点であった。男女別に見た場合では、男子は全項目及び合計点で9割以上、女子は①、②、⑤の項目で9割以上、③、④の項目と合計点で8割以上の得点であった。

上記の結果より、対象者は短期間の学習で剣道の基本動作である面打ち、胴打ちの技能を向上させたことがわかる。その一方で、項目④の打撃と踏み出し後の足捌きについては、全体、男子、女子のいずれにおいても他の項目と比較して得点となっており、改善に向けた取り組みの必要性が明らかとなった。

表 2 は、対象者全体の形成的評価の結果を示したものである。

表 2. 形成的評価の結果

全体 n=37	2 時間目	3 時間目	4 時間目	5 時間目	6 時間目
成果	2.86 (0.39)	2.84 (0.40)	2.84 (0.40)	2.91 (0.32)	2.83 (0.41)
	5	5	5	5	5
意欲・関心	2.96 (0.19)	2.96 (0.19)	2.96 (0.19)	2.96 (0.19)	2.98 (0.14)
	4	4	4	4	4
学び方	2.76 (0.43)	2.81 (0.39)	2.96 (0.19)	2.87 (0.34)	2.89 (0.32)
	4	5	5	5	5
協力	2.93 (0.26)	2.96 (0.19)	2.96 (0.19)	2.96 (0.19)	2.96 (0.19)
	5	5	5	5	5
総合評価	2.88 (0.34)	2.89 (0.33)	2.92 (0.31)	2.93 (0.28)	2.91 (0.31)
	5	5	5	5	5

2～6 回目の授業後に実施した形成的評価の結果からは、「成果」「協力」「総合評価」の評定が全ての授業において 5 段階中 5 点、「学び方」の評定が 2 回目の授業で 4 点、3～6 回目の授業で 5 点、「意欲・関心」の評定が全ての授業において 4 点であった。男女別にみた場合においても同様の結果が得られており、授業に対する非常に高い評価が得られた。これにより、計画、実践した授業内容及び展開は、対象者の技能向上のみならず、目標やめあてに向かって仲間と協力して意欲的に取り組めるものであったことがうかがえた。

5. まとめ

リズムを活用して各動作をつなげていくことで基本動作の習得が短期間で可能となった。また、リズム打ちの学習の前後に、「相手の胴や面を打って一本をきめるには?」「相手に面を防御されたら?」といった二段の技や引き技につながっていく内容と展開の工夫を図ることで、学習者の意欲を高め、「助け合い、高め合う」協働的な学びがもたらされた。一方で、④の打撃後の足さばきの得点が 9 割に満たなかったことを受け、打撃の動作のタイミング 4 において、リズムの中により明確な「アクセント」をつけ、左足で床を押し出しながら移動することを意識させる工夫の重要性が示唆された。

上記の成果を受け、教員用指導支援資料（別紙①）を作成し、それを活用した授業実践を含む今後の研究への足掛かりをつくることができた。

6. 主な学会発表及び論文等

日本武道学会
武道学研究

*動画資料に興味のある方は福岡教育大学 保健体育講座 本多 壮太郎にまで
メール (shonda@fukuoka-edu.ac.jp) でご連絡ください